



七戸町 議会だより

2013 年

NO. 31

平成 25 年 2 月 1 日発行
青森県七戸町議会
広報編集特別委員会



12月6日の一般質問を傍聴する城南小学校6年の児童40名
(児童の感想文4・5ページに掲載)

12 月 定 例 会

定例会の主な審議内容	2
臨時会の主な審議内容	3
一般質問に6人登壇	4～9
委員会の動き	10

12月
定例会

主な審議内容

議案

平成24年第4回定例会は12月3日に開会し、田島政義議会運営委員長の報告のとおり、会期を7日までの5日間と決定しました。
3日は、今定例会に上程された議案について町長の提案理由説明、6日は一般質問（6人）、最終日の7日は議案審議を行いました。
提出された18議案は、本会議で審議し、2議案を否決、16議案を可決して閉会しました。

伴い、国を対象に加えて改正するものです。
☆全会一致で可決

○土地改良事業の経費の賦課徴収に関する条例の改正
正

土地改良法の改正に伴い、災害復旧事業の手続きが変わったため改正するものです。
☆全会一致で可決

○青森県市町村職員退職手当組合規約の変更
正

○青森県市町村総合事務組合規約の変更
正

三戸郡町村会館管理組合が平成25年3月31日で解散するため、別表から削るものです。
☆全会一致で可決

○平成24年度12月補正予算
☆全会一致で可決

○中部上北広域事業組合の共同処理する事務の変更及び規約の変更
☆全会一致で否決

○中部上北広域事業組合の共同処理する事務の変更に伴う財産処分
正

特別養護老人ホーム公立松風荘に関する事務の廃止と廃止に伴う財産処分について協議するものです。
☆全会一致で否決

○核燃料物質等取扱税交付金事業基金条例の制定
正

原子力発電に関連する施設の立地及び周辺市町村に交付される青森県核燃料物質等取扱税交付金を、地域

平成24年度12月補正予算

区 分		補 正 額	予算総額
一 般 会 計		1億 144万0千円 →	89億2,398万4千円
特 別 会 計	国民健康保険	5,502万9千円 →	23億8,804万6千円
	後期高齢者医療	30万7千円 →	3億3,611万4千円
	介護保険	6,160万6千円 →	21億4,692万5千円
	介護サービス事業	△49万6千円 →	1,003万2千円
	公共下水道事業	113万4千円 →	4億8,022万4千円
水 道 事 業 会 計		22万3千円 →	6,536万6千円
		(予算組替) →	3億11万3千円
一般会計補正予算の内容			
○歳入の主なもの			
・県支出金		7, 8 7 7 万円	
○歳出の主なもの			
・道路維持費		1, 5 6 1 万円	
・核燃料物質等取扱税交付金事業基金		7, 3 2 7 万円	

の活性化、防災・安全対策に活用するため定めたものです。

☆ 賛成多数で可決
(賛成13、反対2)

反対討論



佐々木寿夫 議員

地方を意のままにする
交付金は不要！

原子力発電は、大変危険で無駄であるということが、福島原発事故で明らかになりました。

原子力発電施設は、現在のまま凍結し、そして処分してしまうのが一番良いと思っています。

原子力発電の立地及び周辺市町村に対して交付金を配布するというのは、原子力発電所が立地周辺の地域を意のままにしようとしているのではないかと、私は思います。

特に核燃料物質等の取扱税交付金は、電源三法以外の交付金で、核燃料物質等の取扱事業者からきます。

その交付金が、関連施設の立地及び周辺地域に交付され、その地域の防災・安全対策や、地域活性化対策に反映され、原子力発電への依存度が増すことになると思うので反対します。

(外反対議員)

田嶋 弘一

(賛成議員)

天間清太郎 中村 正彦
田嶋 政義 工藤 耕一
二ツ森圭吉 松本 祐一
三上 正二 田嶋 輝雄
盛田恵津子 瀬川 左一
附田 俊仁 岡村 茂雄
市 清悦

第3回

臨時会

平成24年11月29日

議案

○特別職の職員で常勤のもの
の給与及び旅費に関する
条例の改正

青森県人事委員会の勧告
に準じ、町長・副町長の期
末手当を6月と12月を併せ
て0.1月引き下げるために、
改正するものです。

☆ 全会一致で可決

○教育長の給与、勤務時間
その他の勤務条件に関する
条例の改正

青森県人事委員会の勧告
に準じ、教育長の期末手当
を6月と12月を併せて0.1月
引き下げるために、改正す
るものです。

☆ 全会一致で可決

○議会議員の報酬及び費用
弁償等に関する条例の改
正

青森県人事委員会の勧告

に準じ、議会議員の期末手
当を6月と12月を併せて0.1
月引き下げるために、改正
するものです。

☆ 全会一致で可決

○職員の給与に関する条例
の改正

青森県人事委員会の勧告
に準じ、町職員の期末手当
を6月と12月を併せて0.1月
引き下げるために、改正す
るものです。

☆ 賛成多数で可決
(賛成12、反対2)

反対討論



佐々木寿夫 議員

公務員の給与はこれまで
も人事院勧告ですつと引き
下げられております。

現在、日本社会はデフレ
不況が続ぎ、デフレスパイ
ラルが続いております。国
は金融緩和でこれを取り

ろうとしていますが、内需
がないと、いくら金融緩和
をしても経済はよくなりま
せん。

内需の大部分を占めるの
は個人消費であり、個人消
費の大部分を占めるのは給
与であります。

公務員の給与は、他の業
種の給与の基準的な性格を
もつため、公務員給与の削
減は他の業種にも反映し、
働く者の給与が下がるのに
拍車がかかり、デフレがま
すます深刻な状況になりま
す。

再来年は消費税が3パー
セント上がり、さらに5パー
セント上がることになる
と、深刻な不況が訪れるこ
とが考えられます。

したがって、このような
国内外の経済の状況、当町
における経済の状況から考
えてみても、公務員の給与
を下げるということには賛
成するわけにはいきません。

賛成討論



三上正二 議員

確かに佐々木議員がおつ
しゃることも一理あります。
私も事業をやっております
ので、デフレ経済の影響
を感じております。

確かに公務員給与は一つ
の目安にはなっているのだ
しょうが、一般企業はそれ
以上に差ができていて、
どうにもこうにもならない
という状態の中にあります。
職員の給与は、景気が回
復し、まわりがよくなった
時に上げればいいし、人事
院勧告で上がることになる
と思います。

今は、こういう状況の中
で、人事院勧告通りにすべ
きだと思えますので賛成し
ます。



附田俊仁 議員

私も、三上議員と同じく
賛成の立場から発言いたし
ます。

公務員の給与は確かに保
証されています。社会全般
で言いますと、世の中の
方々は今のデフレ経済の中
で苦境に立たされておりま
す。

公務員の皆さんの給与は、
人事院勧告によって、イン
フレの基調で経済が発展し
ていった時には緩やかに上
昇し、今回のようにデフレ
基調の時には、緩やかに減
少という給与の体制を取っ
ています。ですから、非常
に優位な立場に見受けられ
ると思います。

もし、職員の方々の給料
を上げたいのであれば、ぜ
ひ皆さままでご尽力いただき
まして、社会一般の方々の
給料を上げることが、私は望
み

ましいことだと思えますの
で賛成します。

(外反対議員)

岡村 茂雄

(外賛成議員)

天間清太郎 中村 正彦
田島 政義 工藤 耕一
二ツ森圭吉 松本 祐一
田嶋 輝雄 田嶋 弘一
盛田恵津子 市 清悦

報告

○専決処分事項の報告

・青森県後期高齢者医療広
域連合規約の変更につい
て

住民基本台帳法の改正に
より、外国人住民が住民基
本台帳の対象とされたこと
に伴い、改正するものです。
・平成24年度一般会計補正
予算(第3号)について
12月16日投票の衆議院
議員総選挙の執行経費を予
算化したものです。

☆ 全会一致で承認

一 般 質 問

佐々木寿夫 議員

地域コーディネーター継続か

教育長 継続実施していく



議 員

七戸町では、地域ぐるみで学校を支援し、子ども達の笑顔あふれ、子どもが成長できる学校にしようと学校支援ボランティア推進事業を行い、平成20年から文部科学省と県や町の予算で、学校とボランティアの間を調整する地域コーディネーターの配置を行ってきました。

子ども達が地域の人達の関わりで地域の人達に信頼感を寄せることは本当に大事なことと思います。またボランティアによる学習支援は今ではなくてはならないものになっているかもしれません。

そこで、次の3点を尋ねます。

① 学校支援ボランティア推進事業による学校教育への成果と地域コーディネーターの役割について

② 地域コーディネーター配置の予算が来年度から国・県の分が削減されると聞いているが、町の来年度からの地域コーディネーターの配置の方針は

③ これからの課題は

教育長

① ボランティアの人達のおかげで、限られた時間内で一人ひとりに十分な指導と支援が保障され技能の向上が図られた。地域コーディネーターの役割は、学校が必要とするボランティアの要望を受け、その募集を家庭や地域に伝えることと、ボランティア活動を望む人と学校をつなぐ役割があります。

② 地域コーディネーター配置の取り組みが県内外に注目され、昨年、城南小学校が文部科学大臣表彰を受賞しましたし、各学校から事業継続を望む声が大い

なので、教育委員会としては事業を継続していきたい。

③ 学校を支援する体制づくり、学校との信頼関係は十分構築されたと思うので、最終的にコーディネーターの方々が自立できる体制を目指したい。

来年度予算の

重点事項は

議 員

① 長期総合計画実現のための予算編成方針と何を大事にするか重点事項について尋ねます。

② 町長は、これまで新エネルギーへ積極的に取り組む姿勢を強調していました。来年度も取り組みますか。

③ 城南児童館や城北分館を再編するというが、新しく建て替える考えはありますか。

防災無線のデジタル化
更新事業に着手する

町 長

① 公債費(借金)を抑制し、経常経費の削減に努め、安定した財政運営を目指します。

新規事業は、私の公約に掲げてある項目に該当する事業を原則とし、既存事業のスクラップアンドビルドによることとします。

主要な項目は、

・ 子ども達がのびのびと勉強したり遊んだりできるように、学校の耐震化対策と学校規模適正化委員会で検討している中学校の統合を進めます。

・ 高齢者が安心して暮らせる町づくり。

・ 防災無線のデジタル化更新事業により災害に対応した町づくり。

・ 農業支援対策の強化をします。

② 天間西小学校、城南小学校に太陽光発電の設置を計画しています。

③ 平成25年度に老朽化がはげしい城北分館の建て替えを計画しています。

城南児童館の建て替え、天間林地区では東小学校と西小学校の空き教室を使っ

て学童保育をしています。独立した建物でと考えているので、年次計画を立てて対応していきたい。

一般質問を傍聴して
児童感想文

わたしは、今日議会を見てきて、議長さんがほんとどしきつていたので、議会はこういうのなんだと思います。学校の問題や高齢者問題などいっぱいありました。子どもの笑顔があふれる町にしたいと町長さんも言っていました。是非そうしてほしいと思いました。

学校支援ボランティアと来年度の予算について話していました。もう一つの質問はいきいきネットについてでした。認知症になる人は全体の8割がかかってしまうことや死亡の半分が癌だということ、予防をしようという話でした。私は、議会を見ていい体験ができたなあと思いました。

今日は、七戸町議会を見学して、いろんな事が分かりました。たとえば、高齢者のアルツハイマーのことについて話してい

特別養護施設の増床を

田嶋 輝雄 議員

町長

長期的な視野に立ち対応

議員

今年度から始まった「第5期介護保険事業計画・高齢者福祉計画」において、平成26年度までに30床の増床の計画が予定されているようですが、今後はそれ以上の増床が必要であると思っています。

その理由として、

①団塊世代の高齢化突入。
②勤めていると、在宅介護をしたくても家族の負担が大きい。

③老々介護の増加傾向にある。中には夫婦、嫁姑、親子等々、同時入所している。

④待機者も百人前後おり、地元で入所できないため、県外、近隣市町村の施設を

利用している。

⑤松風荘の民間移譲問題等々、このような環境を踏まえた時に、町長の見解と方向性を尋ねます。

町長

第5期計画は、要介護認定者数と施設入所希望待機者の現況と推計を踏まえて、介護給付費等のサービス費用の算出、団塊世代の被保険者移動を予想し、第6期の計画を見据えて30床の増床としています。このため、第6期の早い段階で、さらに増床もあり得るということです。

利用者の増加に合わせて増床できれば良いのですが、安易に増床すると全国でトップクラスの介護保険料にはね上がります。

高齢者時代を健康に過ごしてもらいたい、介護を受ける年齢を先に延ばす対策をとらなければと考えています。

介護予防対策事業は

議員

一方で健康な方、要支援、要介護1、2の方々の介護

度をこれ以上進行させない

ためにも、地域包括支援センターを中心に社会福祉協議会や各関係介護サービス事業所等と連携して、理解と協力を得て、福祉施策の強化を図っていかねければならないと思います。

「明日は我が身かも知れませんが」このことを身近な問題として、住民と一緒に考え、自分らしく元気に過ごし、できるだけ介護されない環境を得るためにも、地域全体で意識を高め、特に地域と密着したサービスの充実を図ることが重要であります。

そのためには、行政の誘導、支援強化が必要だと思います。どのような予防対策を展開しているのか、また本庁舎、七戸支所に大きな垂れ幕でスローガンを掲げて喚起してみてもどうか町長に尋ねます。

町長

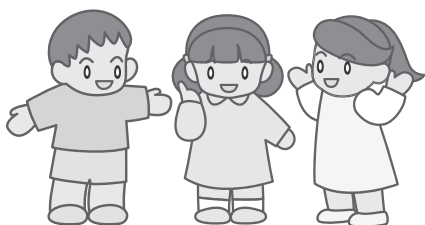
運動機能向上事業ほか

平成18年から地域包括支援センターを開設し、要介護予防と地域支援事業を展開しています。

要支援・要介護になる恐

れの高い高齢者対策として、「運動機能向上事業」は民間2事業者へ委託し実施、「いきいきネット事業」は社会福祉協議会へ委託し実施、「認知症予防教室」は天間林地区の7分館で実施七戸地区げんき会では「転倒骨折予防教室」を実施しています。

徘徊高齢者見守りネットワーク事業等も関係者、関係機関と連携して実施していますが、知られていない部分があるというのも確かです。商店街は今活気を失いつつあります。なので、予算を上げたほうがいいと思います。議員さんたちは、みんなぼくたち町民のことを考えています。そのことに感謝したいと思います。議会に行っているいろいろなことを間近かで見て、分かったのよかったです。



たけど、アルツハイマー

を予防するために月一回予防教室をやっていることも分かりました。学校の事では、学校支援ボランティアに協力してもらいたいと話していました。七戸町の商店街のことで困っている事などあることが分かりました。議会見学でいろいろな事が分かり勉強になりました。

ぼくは議会見学をして勉強になりました。商店街にも予算を入れてくださいという話がありました。ぼくもそれには賛成です。商店街は今活気を失いつつあります。なので、予算を上げたほうがいいと思います。議員さんたちは、みんなぼくたち町民のことを考えています。そのことに感謝したいと思います。議会に行っているいろいろなことを間近かで見て、分かったのよかったです。

中央商店街に展示場所を

町長

視野に入れて町づくりを進める

瀬川 左一 議員



議員

私は、これまでも城下町構想とか、商店街の活性化対策に関することで質問しています。

新幹線の駅ができて乗降客も増え喜ばしく思いますが、その利用客が中央商店街と繋がらない。沢山のイベントを実施していますが、その日限りのにぎわいでしかない。そこで、旧七戸町と旧天間林村の歴史や文化を学べる展示場所を商店街に作ることを提案します。紹介したい偉人の一人として、荒屋平の原野を開墾し豊かな農地に変えた「工藤轍郎（てつお）」がいます。

工藤氏は谷地頭（現三沢市）に英式大農法による洋式牧場を開設した「広沢安任（やすとう）」、三本木原（現十和田市）を開墾した「新渡戸傳（つとう）」と並んで上北地方に多大な貢献をした人物で、東奥の3偉人として中央にまでその名は鳴り響いていたそうです。

しかし、三沢市と十和田市には先人記念館がありませんが、当町にはありません。天間ダムを造り開田していった歴史もあります。貴重な伝統工芸で人気が出てきている「南部裂織」も七戸が中心だったそうです。

歴史と教育の町には、奥深い文化が眠っています。学校教育に生かし、観光客が立ち寄り見学できる施設が必要だと思いますが、町長の考えを尋ねます。

静岡県島田市が、国庫補助金を受けて真新しいアーケードを壊し、東海道五十三次の昔の城下町を再現する取り組みを拝見しました。

商店街を早く活性化させてほしい、空き店舗を利用して何かを始めてほしい、秋祭りの山車を作っている町民にお願いして、古い町並みを模型で再現してもらうなど、暫定的にでもなにかをやってほしいと願っています。

町長

教育委員会では、文化交流センター（旧西野小中学校）に、七戸城跡、二ツ森貝塚の出土品や戦前戦後に使用された農具などを管理保存し、見学していただいています。

歴史の学習という面では公民館講座の開催や、町の歴史や文化に対する啓もう啓発という観点で学んだことについて、小学生学習発表会を開催し、発表の機会を提供しています。

商店街の活性化に対しては、これまで商工会や中央商店街協同組合はもとより、ひなまつりや鎧まつり、町なかアート美術館の実行委員会などたくさんの団体が取り組んでいます。総町づくり全体を考え、総

務省派遣の専門家を招いて、七戸の明日を考える町づくり百人会議を開催しています。

その関連で、横浜国立大学の学生たちが来町して、町なかの建物、奥羽牧場などのスケッチをして七戸らしい景観づくりについて町民の方々と意見交換をしました。

町並みの連続性を高めるために店構えを直す、歴史や建築的価値のある民家を文化財として登録する。建築物に特化した町歩きマップを作成するなどの意見が出されました。

町づくりは行政だけでなく、市民のものではないということと、町としては、こうした熱意をもつ人材が育つような研修や先進地の視察などを支援しながら、その方

々と一緒になって協働で城下町であった特徴を生かしながら、歴史・教育の町づくりを具体的に推進していきたい。



ひげ塚公園にある
工藤轍郎の立像



七戸鎧まつり会場にて



七戸ひなまつり会場にて

総合計画の達成状況の公表を

町 清悦 議員

町長

町民による評価を25年度に予定

議員

七戸町長期総合計画の達成状況と、議員が一般質問で提案した案件の進捗状況や達成状況を、一覧表にまとめて公表する考えがないかを尋ねます。

町長

進捗状況は、事業ごとに重要性や進捗状況を加味して、定例会や常任委員会で説明しております。町民に対しては広報しちのへ、議会広報などで報告できているものと思っています。

計画全体の評価は、町民による第三者評価を含めて平成25年度に実施する方向で準備を進めています。

雇用創出の取り組みと成果を示せ

議員

農業及び商工業、七戸町雇用創造協議会において実施した雇用創出のための取り組みとその成果（人数）を尋ねます。

延べ316人が雇用された

町長

農産物加工処理施設など三つの事業で14人雇用、着地型観光推進事業など四つの事業で10人雇用、芸術文化観光推進事業で1人の雇用があり全体で25人が雇用され、事業終了後も21人が継続雇用されています。

緊急雇用創出事業では、21年度から現在迄、延べ291人が雇用されています。

雇用創造協議会では、推進事業で、体験型観光先進地体験視察研修と販路拡大セミナーを実施し5社の参加がありました。観光コンシェルジュ養成セミナー15回、各セミナーを63回開催して、受講者延べ214人で就職・転職・創業した者は56人です。

実現事業では、観光サイト

事業「ホームページ旅の蔵開設」と、おみやげ開発事業「馬肉のみそ炊き他5品」があります。馬肉のみそ炊きは駅弁「さくら弁当」として、七戸十和田駅で販売されています。

小中併置校案を追加できないか

議員

町長

天間東小学校、天間館中学校、榎林中学校は、震度6強の地震で崩壊あるいは倒壊する危険性があります。天間林地区の来年度の小・中学生の人数は、合わせて490名です。

天間西小学校は、構造耐震のIS値でも問題がなく720名収容でき、耐用年数もあと25年ありますので、小中併置校として利用するのが最適で、校舎の新築は、児童・生徒が大幅に増えてからでも遅くはないと思います。

七戸町学校規模適正化基本計画と町民対象のアンケートに、私の案を追加する考えがないかを尋ねます。

追加はできない

町長

小中併置校の可能性は、国の設置基準に満たないため厳しいと考えます。

地域との合意、地域振興の絡みがあるので軽々しく論じられるものではないため、議員の案を追加することはできません。

南部縦貫株式会社への対応を示せ

議員

南部縦貫株式会社の社員の選考・採用方法に関する提案状況と、前社長が選任された経緯を尋ねます。

随意契約する際の金額の積算根拠についても業務毎に説明願います。

随意契約の法的根拠として前回町長は、「業務内容の公共性を重視し、住民サービスを低下させないため」と答えましたが、当町が行う支出負担行為の中で公共性が低いものや全くないものがあるのか、また競争入札に変えた場合に想定されるサービスの低下とその理由を尋ねます。

2年前の9月議会で同社の問題が取り上げられた時点で、早期解決に向けて動くべきだ

つたと思います。安易な税金投入による救済や特別扱いは多くの町民が認めません。町長としての責任を果たして来たのかについて尋ねます。

労働者の雇用の安定を

町長

前社長の選任経緯の説明は受けていません。社員の採用方法についても提案や意見を申し立てる立場でないため、していません。

町が発注するものに公共性のないものはありません。

同社との契約については、青森労働局から契約内容の是正指導を受け、労働者の一定期間の雇用の安定と、医療・給食関係業務等に間違いの起きないように、町の業務仕様書に基づく見積書を精査して随意契約しています。いずれは競争入札に付していきます。

2年前の質問は、タクシー事業の赤字の関係で、新幹線開業で黒字転換も可能ということでした。震災の影響で稼働率が減り、事業の売却を視野に入れた検討を提案しています。

岡村 茂雄 議員



高齢者対策を示せ

町長 豊かな公共サービスの提供を

議 員

当町の人口は、毎年平均 230 人ほど減少しています。反面、高齢者が増加しています。中でも 75 歳以上の高齢者が毎年 100 人余り増加しています。10 年後には高齢者が人口の 40 パーセントを超えることが予測されます。あと 30 年もたないうちに、若者より高齢者が多くなり、集落によっては住む人がほとんどいなくなる地区が多くなると思われます。

人口の減少は、最も深刻な問題で、基幹産業の農業や地場産業が衰退して、町が生き残れなくなることとは町当局も十分認識しているはずで、しかも、毎年増加する高齢者については、町財政の負担が増大することとは確実です。

これらを考えると、今日からでも長期的な対策を進める必要があります。そして、公共事業も、長期的な行政需要の展望に基づき、事業の選択をするべきです。

町長は、誰もが住んでみたい町づくりをしたいと思います。

ますが、町づくりのポイントとなるビジョンが伝わってきません。こうしているうちにも毎月 20 人程度の人口が減少しています。人口減少がもたらす町の将来と、急激な高齢化社会への具体策を尋ねます。

もう一つの高齢者対策は日常生活への支援です。高齢者は一人住まいや高齢者だけの世帯が年々増加しています。買物や通院、除雪などの日常生活に支障をきたしている方が相当いると思います。

町の計画では、高齢者のための商店街づくりや通院バスの確保、除雪を強化するとしています。更に充実させる必要があります。特に、除雪作業は身体的負担が大きく、現在、町内会がボランティア活動で支援しています。町内会自体が高齢化しており、支援にも限界が出ています。このような高齢者の日常生活への支援策を尋ねます。

町 長

できるだけ人口を減らさないということを念頭に置

き、医療、子育て支援の充実や雇用の創出、住環境の整備等、各分野においてさまざまな施策を進めていきます。

東北新幹線の開業による交流人口の増加、通勤通学など生活圏の拡大、七戸町の強みを生かした町づくりを進めていきます。

高齢者にやさしい商店街づくりに空き店舗を活用した「まちの駅」は、高齢者の方々の買物、交流の場、コミュニティバスの停留所としても利用され、商店街活性化の核として今後も継続支援していきます。

点在する空き店舗の活用については、商店街にぎわいを取り戻すために、商工会や町づくり団体と連携して取り組みを強化していきたいと考えます。

2 年前に一人暮らしの高齢者、高齢者だけの世帯が増えていることから「高齢者安心生活ゾーン」を公共施設や病院が近い中心市街地に設置し、集中して住んでもらおうと調査しましたが、希望者が少なく取りや

めました。冬の期間だけでも住めればという声が増えてきていますので、再検討の余地があります。

町内会などが、ボランティアで地域の方々の除雪を支援していますが、コミュニティ機能の強化という視点からも模範的な取り組みであるため今後も継続していただきたいと考えています。

町としては、支援の及ばない要援護者や障害者世帯などの除雪作業が困難な方について、青森県地域支援合い体制づくり事業を活用して、中型ロータリー除雪車、雪運搬用トラックを導入する予定です。

導入後は、社会福祉協議会が管理し、ほのほの除雪ボランティア団体に貸出できるように自治会などネットワークの構築に向けて、作業を進めています。

自治会や各種団体などと連携・協働することにより地域の暮らしを支え、豊かな公共サービスを提供することができると思います。

田嶋 弘一 議員

ローズカントリーの振興策は

町長

観光資源の確立と農業振興で

議員

町長は、山形県の村山市と南陽市の観光バラ園を視察、また、農業振興のために同県の熊谷園芸と小島園芸で、バラとリンドウの栽培を視察したが、今後東八甲田ローズカントリーは農業振興を図るのか、観光振興でいくのかを尋ねます。

農業関係雑誌を見ると、全国には農業研修を受けたが、就農できる場所がなく探している方がいます。本気で農業振興を考えるのであれば、専門の窓口を設けるなど受け入れ態勢を整備し、栽培指導者も民間で実践している熊谷農園さんなどをお願いするなど

し、力を注いでほしい。

町長

視察した公立の両観光バラ園は、経営は厳しいが、他の観光地との相乗効果を視野に入れて運営している。民間の両バラ園は、水耕栽培をして利益を上げている。リンドウは輸入物がなく品質しだいでは新たな産地として再生できると印象を受けました。

町では、観光資源としての確立とバラの栽培方法の変更や、ハウスを利用したリンドウの試験栽培、新規就農者も対象に研修会や勉強会などを実施して、農業振興策も進めていきたい。

魅力のあるまちづくりを

議員

ゼロ歳児100名、団塊世代各年400名が町の現状です。このまま少子高齢化が進んでいくと、20年後の我が町は、閑散として寂しいイメージだけが浮かびます。若い世代が町から出ていかなくてもよい魅力のあるまちづくりをしてほしい。

まちづくりを進める各種審議会の委員には、30歳を中心

とした若い世代の人達を入れて、教育、介護など当面する課題に取り組めるようにしてほしいが、町長の考えを尋ねます。

育児休暇の助成を検討

町長

一例として、働く女性が安心して育児休暇を取れるように企業への助成制度のPRや上乗せ助成を検討しています。

これまでも、各種会議に若い人たちが入って意見を出し合いながらやっておりますし、若い感性、発想を大事にして町づくりを進めていきます。

芝生化の取り組みを

議員

芝生化すると多くのメリットがあります。同志社大学でストレス反応調査、遊び調査などを実施してデータをまとめたものがあります。子ども達の成長には、芝生がいいと思うが、町長の考えを尋ねます。

調査し、再検討する

町長

前回の質問後に調査した結果、実施したいという学校がなかったが、先進事例を調査

し、再検討します。

町民運動会の開催を

議員

町民運動会を開催できないか。運動会を開催することにより、地域に一体感が生まれ、地域が活性化されていくと思うが、町長の考えを尋ねます。

町長

町民運動会をやめた経緯もあります。いろいろな意見を聞きながら、できれば一旗のもとに多くの町民が集まってくれば意義があると思います。検討します。

南部縦貫の今後の対応策を示せ

議員

平成22年に中部上北広域事業組合の監査委員が、南部縦貫株式会社を監査し町長に報告書を提出しています。当時から行動を起こしていれば、今回のような事態が起きなかったと思います。300人の従業員を抱える南部縦貫株式会社の今後をどのように考えているのか尋ねます。

雇用の安定確保が第一

町長

町でも、8月に4日間監査しました。その結果を受け同社に対して経営改善策を提案しています。

同社が営業停止になれば、従業員と家族が路頭に迷い社会不安が起きますので、雇用の安定確保を進めながら、会社の再生支援のために、レールバスや保有地の買収を検討しています。

商工会の合併はいつか

議員

町長はできるだけ早く商工会の合併を実現させ、町の工業の基盤強化を図りたいと言っているが、いつになれば合併ができるのかを尋ねます。

早期合併を呼びかける

町長

合併条件が整わず協議が進まないようではありますが、支援できるものは支援し、早期の合併に向けて呼びかけていきます。

委員会の動き

◎建設産業常任委員会

開催日 平成 24 年 11 月 20 日

案 件 ① 12 月定例会における各課懸案事項について

② 委員会報告書の取りまとめについて

③ 閉会中の継続調査申出書について

内 容 各課長より懸案事項等の説明を受けた。

委員会報告として、「第一次産業の振興を図ること」「生活道路及び生活排水路を計画的に整備すること」「町営住宅使用料等の未収金徴収強化を図ること」「公共下水道を計画的に整備すること」「七戸町に適合した農地集積を図ること」「公共事業等の早期発注を図ること」を町当局へ要請することにした。

平成 25 年 12 月定例会を期限とし、所管事務の閉会中の継続調査申出書を提出することにした。

平成 24 年 11 月 20 日

案 件 ① 12 月定例会における各課懸案事項について

② 委員会報告書の取りまとめについて

③ 閉会中の継続調査申出書について

内 容 各課長より懸案事項等の説明を受けた。

委員会報告として、「企業誘致の促進並びに起業家の育成推進を図ること」「町税等徴収体制の強化を図ること」「再生可能エネルギーの積極的な導入を図ること」「職員の接遇改善並びにワンストップ行政サービスの推進を図ること」を町当局へ要請することにした。

平成 25 年 12 月定例会を期限とし、所管事務の閉

会中の継続調査申出書を提出することにした。

平成 24 年 11 月 20 日

案 件 ① 12 月定例会における各課懸案事項について

② 委員会報告書の取りまとめについて

③ 閉会中の継続調査申出書について

内 容 各課長より懸案事項等の説明を受けた。

委員会報告として、「企業誘致の促進並びに起業家の育成推進を図ること」「町税等徴収体制の強化を図ること」「再生可能エネルギーの積極的な導入を図ること」「職員の接遇改善並びにワンストップ行政サービスの推進を図ること」を町当局へ要請することにした。

平成 25 年 12 月定例会を期限とし、所管事務の閉

会中の継続調査申出書を提出することにした。

平成 24 年 11 月 20 日

案 件 ① 12 月定例会における各課懸案事項について

② 委員会報告書の取りまとめについて

③ 閉会中の継続調査申出書について

内 容 各課長より懸案事項等の説明を受けた。

委員会報告として、「企業誘致の促進並びに起業家の育成推進を図ること」「町税等徴収体制の強化を図ること」「再生可能エネルギーの積極的な導入を図ること」「職員の接遇改善並びにワンストップ行政サービスの推進を図ること」を町当局へ要請することにした。

平成 25 年 12 月定例会を期限とし、所管事務の閉

◎文教厚生常任委員会

開催日 平成 24 年 11 月 19 日

案 件 ① 12 月定例会における各課懸案事項について

② 委員会報告書の取りまとめについて

③ 閉会中の継続調査申出書について

内 容 各課長より懸案事項等の説明を受けた。

委員会報告として、「文化財の保存（4 道県共同）の推進を図ること」「町学校規模適正化の早期実現を図ること」「環境整備対策（不法投棄及び水質汚濁対策）の強化を図ること」を町当局へ要請することにした。

平成 25 年 12 月定例会を期限とし、所管事務の閉

会中の継続調査申出書を提出することにした。

平成 24 年 11 月 26 日

案 件 ① 第 4 回定例会提出議案等について

② 委員会報告書及び閉会中の継続調査申出書について

③ 各常任委員会の委員会報告及び閉会中の継続調査申出書について

内 容 総務課長・企画財政課長から提出議案等の説明を受けた。

委員会報告として、「議会活性化方策としての議会基本条例策定視野に、町当局との意見交換協議を早急にすべきである」を町当局へ要請することにした。

平成 25 年 12 月定例会を期限とし、所管事務の閉

会中の継続調査申出書を提出することにした。

平成 24 年 12 月 6 日

案 件 ① 定例会提出議案の追加案件 2 件について、追加日程で審議することに決定した。

開催日 平成 24 年 12 月 6 日

内 容 定例会提出議案の追加案件 2 件について、追加日程で審議することに決定した。

開催日 平成 24 年 12 月 6 日

内 容 定例会提出議案の追加案件 2 件について、追加日程で審議することに決定した。

開催日 平成 24 年 12 月 6 日

内 容 定例会提出議案の追加案件 2 件について、追加日程で審議することに決定した。

開催日 平成 24 年 12 月 6 日

内 容 定例会提出議案の追加案件 2 件について、追加日程で審議することに決定した。

開催日 平成 24 年 12 月 6 日

内 容 定例会提出議案の追加案件 2 件について、追加日程で審議することに決定した。

開催日 平成 24 年 12 月 6 日

内 容 定例会提出議案の追加案件 2 件について、追加日程で審議することに決定した。

開催日 平成 24 年 12 月 6 日

内 容 定例会提出議案の追加案件 2 件について、追加日程で審議することに決定した。

開催日 平成 24 年 12 月 6 日

◎道路整備促進特別委員会

開催日 平成 24 年 12 月 7 日（本会議終了後）

内 容 建設課長から平成 24 年度の委員会活動報告を受けた。

上北横断道路（上北道路工区）の視察を実施。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

内 容 2 月発行の議会だよりの編集を行った。

開催日 平成 25 年 1 月 10 日・17 日

編集後記

一般質問で壇上に立つと傍聴席と議員席が正面に見えます。議員はこの日のために、情報収集と発言内容の整理に多くの時間を費やします。

今回は、城南小学校の児童の傍聴により、議場がい

つもとは違う雰囲気になりました。七戸町の将来を担う子ども達が、議会の傍聴をきっかけに、将来の町づくりを意識しながら勉強してくれば幸いです。

議会だよりは、より読みやすく、より読みたくなるような紙面づくりを心掛け

ており、文章を短縮してできたスペースに、質問内容に関連する写真や図表を入れて改善を図りました。

それでも、議員の熱い想いや豊かな感情など、紙面で伝えるのが難しいものもあります。

今後は、傍聴したくなる紙面づくりに心がけて編集に取り組んでまいります。

（町）

議会議長 町 清 悦

副議長 盛 田 恵 津 子

委 員 瀬 川 左 一

佐 々 木 寿 夫

附 田 俊 仁

岡 村 茂 雄

議 会 広 報 編 集 特 別 委 員 会

議 員 長 町 清 悦

副 委 員 長 盛 田 恵 津 子

委 員 瀬 川 左 一

佐 々 木 寿 夫

附 田 俊 仁

岡 村 茂 雄